



【第335号 紙面案内】

第1面…巻頭言

第2面…理事会・常任理事会 議事録

第3面…理事選挙・山城賞

第4面…第89回大会開催校案内

第5面…第90回大会自由論題募集

第6面…機関誌募集、部会案内

第7-9面…部会報告、新刊紹介

第10面…事務局より

雑感：山城賞審査を顧みて

山城賞委員会 委員長 辻村 宏和（中部大学名誉教授）

委員長を拝命してはや3年、任期満了間近になってつらつら思うに任せて回顧の気持ちを残しておきたい。

書評などは違って学会賞審査となると付随して発生する問題も重く、“引き受けるんじゃないかった”と悔やみもしたが後の祭り。第一に査読論文審査とは異なりダブルブラインド制を採用しておらず各委員の審査内容は非公開であることから、ジャッジに強気と弱気が入り交じる。委員会が定める「山城賞応募基準」はもとより、学術研究のクレジットを担保すべく「学術研究要件」（①形式要件②実質要件で構成）からの入念なチェックが施される。が、芥川賞や直木賞の選考よろしく、学術研究観ひいては学問観の微妙なところで委員5名の標準偏差値は高く、委員会は同床異夢メンバーの集合体と化す（笑）。毎回結論に辿り着いたのはひとえに委員諸氏のご理解ご協力の賜物で、この場で感謝の意を表したい。

またジャッジの困難性とは裏腹に、そもそも応募件数の低調さも大きな問題である。2011年本学会の日本経営教育学会から日本マネジメント学会への改名に伴い、研究コンテンツのストライクゾーンは拡大したはずなのだが、未だかつて応募豊作の年はない。僭越な言い方だが若い学会員諸氏におかれては覚醒してほしい、経営学にはまだまだ経済学仕様では探索しきれない肥沃な地盤が残っていることに。「こんな研究があったのか、新種だ!」と、アドレナリンMAXにさせてくれる果敢な研究で応募されんことを待ち望んでいる。むろん本学会創設者、山城章先生の経営教育論の進化系を目指す“王道コンテンツ”もスルーしてはならぬ。

その山城先生は「研究“内容”の独自性が研究“方法”の独自性を生む」（『経営原論』丸善、1970年、p. 34 抜粋要約）と喝破した、けだし名言である。「学術研究、すなわち実証研究（方法）」であらねばならぬ理由はない。「実証先にありき」の「検証できる仮説」よりも「検証してみたくなる仮説」の構築こそが醍醐味である。測定「容易なもの」よりも「容易でないもの」への感性を鈍化させるのは経営学者にとっては不幸なことである。どんな研究ファッションが去来しようと自前の仮説が欲しい。仮説の「仮」とは“検証前”の意に非ず、“My Theory スタート”の意に他ならず、それは学者の“自分探し”にも等しい。

折しも本学会会員数はジリ貧状況にあり危険水域に近づきつつある、“あーた、大変ですよ、こりゃ”（古典落語の名人・八代目桂文楽の名調子）。学会賞は研究の強力なモチベータで、山城賞委員会の新チームに託す次第である。妄言多謝。

◇◇理事会・常任理事会 議事録◇◇

1. 日時：2024(令和6)年3月16日 18:00～19:30
2. 会場：(オンライン開催)
3. 議題
 - (1) 第89回全国研究大会について
 - ・奥山実行委員長より2024(令和6)年6月7日(金)から9日(日)の日程で、明治大学(駿河台キャンパス)で開催される第89回全国研究大会に関して、統一論題プログラム等の説明がなされ、承認された。
 - (2) 第90回全国研究大会について
 - ・第90回全国研究大会について2024(令和6)年10月4日(金)から6日(日)に九州産業大学(大会実行委員長木下耕二氏)で執り行われることが説明され、承認された。
 - (3) 今年度(令和5年度)の活動経過報告及び来年度(令和6年度)の活動計画概要について
 - ・各部長、委員長より活動実績の報告があった。
 - ・実・学一体推進特別委員会について、副会長より進捗状況が報告された。
 - ・国際委員長より韓国経営教育学会の任期に伴う執行部の交代、日本マネジメント学会側の報告予定者、会長の出席等が説明された。
 - ・総務委員長より2024年度(令和6年度)の活動計画問合せがあることが説明された。
 - (4) 来年度会員総会における理事の改選について
 - ・会長より第89回全国研究大会(明治大学)における理事選挙について、日本マネジメント学会理事選挙規程の提示のうえ説明され、会員総会による選挙(選挙総会)が提案され、承認された。
 - (5) 第90回全国研究大会を踏まえた理事の追加選任について
 - ・会長より第90回全国研究大会の実行委員長である九州産業大学の木下耕二氏を理事として追加選任することが提案され、承認された。
 - (6) 機関誌投稿規程及び機関誌執筆要領の改正並びに機関誌のJSTAGEへの掲載の再確認について
 - ・機関誌委員長より機関誌のJSTAGEへの掲載に伴って参考資料3点(理事会提案事項、機関誌執筆要領改定案、機関誌投稿規定改訂案)の提示および説明がなされ承認された。
 - (7) 山城賞について
 - ・山城賞委員長より山城賞委員会が木下耕二氏(九州産業大学)を受賞者として決定したことが報告された。
 - (8) 全国研究大会補助金の執行と研究部会費等との関係について
 - ・会長より全国研究大会時の研究部会の取り扱いについて、組織委員長のもと大会実行委員長と研究部会長の間で協議すること、その際の研究部会に係る費用は、全国研究大会補助金から支出することが提案され承認された。なお、産学シンポジウムや国際シンポジウムについてはこの限りではないことが確認された。
 - (9) その他
 - ・会長より第89回全国研究大会のプログラムに受賞者の報告および表彰式を組み入れる説明がなされた。
 - ・組織委員長より各地域部会および各研究部会の開催日程などの調整を行う必要性について説明された。

◇◇理事選挙実施および選挙管理委員の指名について◇◇

会長 松村 洋平 (立正大学)

第89回全国研究大会(明治大学)の会員総会におきまして理事選挙を実施いたします。会員諸氏のご参加をお願いいたします。

なお、日本マネジメント学会理事選挙規程第2条により、以下の3名の会員を選挙管理委員3名に指名いたします。

田中 克昌氏 (文教大学)

田中 雅子氏 (帝塚山大学)

董 晶輝氏 (東洋大学)

◇◇山城賞の審査結果について◇◇

山城賞委員会 委員長 辻村 宏和 (中部大学名誉教授)

2023(令和5)年度の山城賞【本賞】及び【奨励賞】のご報告をいたします。応募件数は「本賞：2，奨励賞：0」でした。山城賞委員会において慎重な審査を踏まえ選考いたしました結果、下記の作品が「山城賞(本賞)」受賞に至りましたことをご知らせ申し上げます(ダブルブラインド制ではないため、各委員の審査内容は非公開です)。

木下耕二(九州産業大学) 著

『ダイナミック・ケイパビリティのフレームワークー資源ベース再構成の組織能力ー』

中央経済社，2023年4月

(備考)井上善海氏(法政大学)による他薦

木下氏の受賞は、2001年度：辻村宏和(中部大学)、2017年度：柴田仁夫氏(埼玉学園大学、現・岐阜大学)、2019年度：中村圭氏(成城大学、現・島根県立大学)、2020年度：小沢一郎氏(専修大学)に続く第5号となります。謹んでお祝い申し上げます。

本賞、奨励賞ともに応募が未だ低調でございますので、2024(令和6)年度は多くのご応募(2023年10月1日～2024年9月30日に発行された著作)を期待しております。その際には、本学会が定める「本賞・奨励賞応募基準」(『会報』11月号での公募にて記載)を必ずご確認くださいませようお願いします。

◇◇第89回全国研究大会 開催校案内◇◇

明治大学・大学紹介

明治法律学校、のちの明治大学は鳥取藩出身の岸本辰雄、天童藩出身の宮城浩蔵、鯖江藩出身の矢代操によって1881(明治14)年に創立されました。時あたかも自由民権の風潮の真っ只中、明治法律学校はその建学の精神を「権利自由、独立自治」としたのです。それは個人の権利や自由を認め、学問の独立を基礎として自律の精神を養う重要性を示したものです。

その「個」の確立をベースにした精神は、143年経った現在、「個」を強くする大学という明治大学の理念へと引き継がれています。これからも、自ら未来を切り拓く「前へ」のスローガンのもと、社会のあらゆる場面で他者との協同を進め、世界を変革していく強い「個」を育てます。また、明治大学で学んだ多くの研究者が、本学会でも活躍しています。

第89回全国研究大会は、2024(令和6)年6月7日(金)から9日(日)にかけて明治大学駿河台キャンパスにて、対面形式で開催いたします。プログラムと参加要領は、開催校よりお届けしておりますので、そちらをご覧ください。皆様のご参加を心よりお待ちしております。もし届いていない場合には、明治大学・奥山雅之(mokuoku@meiji.ac.jp)までご一報ください。



統一論題：「実・学一体の実践経営学」の未来

日 時：2024(令和6)年6月7日(金)～9日(日)

場 所：明治大学 駿河台キャンパス(〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1)

- JR 中央線・総武線／御茶ノ水駅 下車徒歩約3分
- 東京メトロ丸ノ内線／御茶ノ水駅 下車徒歩約3分
- 東京メトロ千代田線／新御茶ノ水駅 下車徒歩約5分
- 東京メトロ半蔵門線／神保町駅 下車徒歩約5分
- 都営地下鉄三田線・新宿線／神保町駅 下車徒歩約5分

6月7日(金)は東京港見学を予定(定員制・先着順)。

【お申込方法・大会参加費等】

■ 参加申込：

Webサイト

⇒ <https://forms.gle/BA5zUCdydkyAWUhLA>

QRコード



◇◇第90回 全国研究大会・自由論題報告募集◇◇

2024(令和6)年10月4日(金)から6日(日)、九州産業大学において開催される第90回全国研究大会の自由論題報告を募集します。下記要領に従ってご応募下さい。

1. 応募資格

本学会の会員。但し、第85回全国研究大会・自由論題として報告された方の応募はご遠慮下さい。

2. テーマ

本学会の目的に沿う以下のもの。

- ・経営体の諸活動に関する実践的経営の研究
- ・日本的経営および国際的経営の研究
- ・経営者・管理者の実践的能力を育成するための経営教育の研究

3. 応募書類

応募には応募用紙の記入が必要です。日本マネジメント学会ウェブサイトより応募フォーマットをダウンロードし、注意事項を読んで原稿を作成し、下記締め切り期日必着にて電子メールでお送りください。

4. 締切

2024(令和6)年6月30日(日)必着

5. 応募先・問い合わせ先

応募先：日本マネジメント学会事務局

jimukyoku@nippon-academy-of-management.com

問い合わせ先：組織委員長 井上 善海

soshiki@nippon-academy-of-management.com

詳細が決まり次第、学会の会報やホームページ等にてお知らせいたします。

◇◇機関誌委員会からのお知らせ◇◇

機関誌委員会委員長 董 晶輝 (東洋大学)

2025 (令和7) 年7月末に発行予定の機関誌第28巻への投稿論文を募集します。投稿された論文に関わる審査は2024年8月末と2025年2月末の2回を予定しておりますが、2025年5月末までに採択となった論文は第28巻に掲載されます。審査の結果によっては採択になるまでに時間がかかる場合がありますので、早めに投稿されることをお勧めします。投稿の際には、学会ホームページを参照していただき、掲載されている投稿論文規程を遵守し、執筆要領、組見本にしたがって原稿の執筆をするようお願い致します。なお、各地域部会・研究部会や全国大会において報告された会員の方には、特に積極的に投稿されることを期待しております。

【投稿先】

日本マネジメント学会事務局

E-Mail : jimukyoku@nippon-academy-of-management.com

◇◇関東部会からのお知らせ◇◇

関東部会長 大野 和巳 (文京学院大学)

日本マネジメント学会2024年度第1回関東部会を下記の日程で立正大学(代表:松村洋平会長)にて開催いたします。会員の皆様、奮ってご参加くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

事前申込先 URL 及び部会プログラムにつきましては、別途、メールマガジンにてお知らせいたします。

記

日 時 : 2024(令和6)年7月21日(日) 13:00 ~ 16:40

会 場 : 立正大学品川キャンパス9号館

※部会では随時、報告者を募集しております。ご報告を希望される方がおりましたら、関東部会長・大野和巳(kohno@bgu.ac.jp)、関東部会副会長・奥山雅之(mokuoku@meiji.ac.jp)、関東部会幹事・平屋伸洋(hiraya@meiji.ac.jp)のいずれかまでご連絡ください。

◇◇2023年度 第3回 関東部会報告◇◇

関東部会長 大野 和巳(文京学院大学)

2024(令和6)年3月9日(土)午後1時より、法政大学市ヶ谷キャンパスにて、令和5年度第3回関東部会が開催された。昨年、第1回より対面に移行しているが、コロナ前と変わらぬ活発な議論が交わされ、会場は活気に満ち溢れた。年度末の多忙な時期にもかかわらず28名が参加した。懇親会では初参加の登壇者も交え20名が交流し親睦を深めた。

第一報告は、楊 童堯氏(明治大学大学院博士後期課程)「日本のアニメーション制作会社における国際外注取引の進化と課題」、司会は黒澤 佳子氏(秀明大学)であった。本報告では、日中アニメ産業の発展経路に相違をもたらした要因、及び日本のアニメ制作会社の国際外注取引の構造変化に関して、文献調査と現状分析にもとづき考察がなされ、今後の研究課題と方向が示された。

コメンテーターの巴特尔氏(多摩大学)からは、本研究を今後、進めていく上での検討課題など7項目にわたりコメントがなされた。

第二報告は、安西由美江氏(星城大学)「食品業界におけるクロスボーダー戦略的提携におけるトップマネジメントの役割」、司会は平屋伸洋氏(明治大学)であった。本報告では、クラフトフーズ社と日本企業の合弁3社の事例を対象に、先行研究の成果と同社アジアパシフィック部門、日本法人、インターナショナル本社代表へのインタビュー調査の結果から、トップマネジメントの5つの役割が導出された。

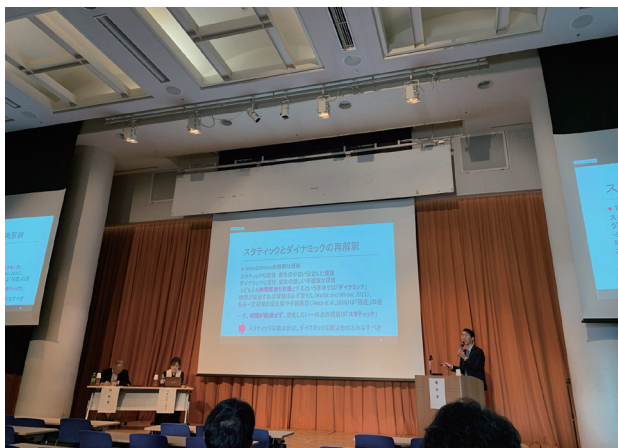
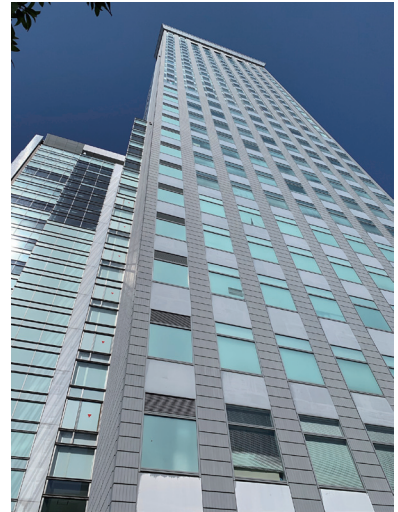
コメンテーターの田中克昌氏(文教大学)からは、本研究の精緻化に求められる改善点についてコメントがなされた。

第三報告は、橋本倫明氏(東京都市大学)「スーパーオーディナリー・ケイパビリティとは何か？ーダイナミックケイパビリティ論の再構築に向けてー」、司会は當間政義氏(和光大学)であった。本報告は、技能的適合度を高めるダイナミックな能力としてスーパーオーディナリー・ケイパビリティ(SC)概念を定義し、持続的競争優位構築には進化的適合度を

高めるダイナミック・ケイパビリティ(DC)とSCの両方が必要であることを論じ、DC論精緻化の可能性を示した。

コメンテーターの粟屋仁美氏(文京学院大学)からは、SCの能力に幅がないか、構成要素がOCに近くないか等、8項目の質問が出された。

末尾になりますが、参加者の皆様、開催校代表の井上善海先生ならびに運営に協力いただいた9名の法政大学大学院生の皆様に感謝申し上げます。



◇◇令和5年度 第1回 関西部会報告◇◇

関西部会長 田中 雅子(帝塚山大学)

2024(令和6)年2月23日(金)午後1時30分から、日本マネジメント学会の第1回関西部会が大阪成蹊大学で開催された。出席者は登壇者を含め23名。東京、長野、岐阜、福井、鳥取、広島からも参加があり、関西部会ならぬ、「全国部会」のような活気に包まれ盛会となった。概要は以下のとおりである。

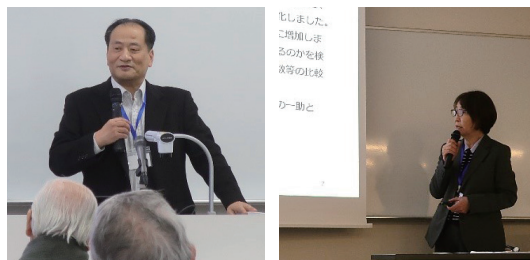
◆研究報告

報告者1：野長瀬 裕二氏(摂南大学)

テーマ：自治体の適疎戦略に関する研究

報告者2：小川 寛子氏(NPO 法人周話)

テーマ：孤立(孤独)死軽減にむけて
—大阪府監察医事務所の
検案事例をもとに



◆実務家バトン講座

講演者：魚見 航太氏

(株革靴をはいた猫 代表取締役社長)

演題：挑戦することが生きがいを生む

—靴を通したインク
ルーシブな雇用創出事業



登壇者3名の報告に共通していた点は、いかに人や現実や事象と「関わる」ことができるか、それが生命線になるという主張である。自治体の活性化も孤立死の軽減も障がい者の雇用も、好ましい結果を導くためには、常日頃からの関係性が要となることを痛感させられる内容であったこともあり、4時間にわたる長丁場であったにもかかわらず、活発で熱心な質疑応答



が繰り返された。部会終了後のアンケートには「経営学とは関係がなくても、人間理解のために大切な内容だった」等の感想が寄せられ、経営学の領域だけにこだわらず、社会性の高いテーマも時に重要であることが示唆された。「和やかで参加しやすい雰囲気だった」との感想も複数寄せられ、部会は無事終了した。これもひとえにご協力いただいた皆様のお陰と主催者一同、深く感謝をしている。ありがとうございました。

◇◇第2回 経営理念研究部会報告◇◇

経営理念研究部会長 村山 元理 (駒澤大学)

2024(令和6)年3月9日(土)に日本経営道協会・企業家ミュージアムにて実施し、30名ほどの参加者で盛況であった。今回の部会は、第88回全国研究大会「マネジメントにおけるパーパスと経営理念」を受けて、「経営者の理念から学ぶ経営者」がテーマとなった。3人の報告とパネルディスカッションから構成された。本稿では3人の講演要旨を紹介する。

千日回峰行者の市川覚峯(日本経営道協会会長)師からは、「経営道29年—『心と道の経営』の啓蒙運動と背景にある『想い』と『理念』というテーマであった。市川氏は、6人以上の先達経営者たちが抱く「戦後、日本精神、大和魂が骨抜きにされ、欧米の拝金主義に巻き込まれた」という危機感から日本精神の復興が託されたことが協会設立の背景にあることを明かされた。すなわち日本は経済大国から精神大国へ歩むべきであり、国柄・国風の刷新をすべきだという想いが遺言として託された。経営理念・企業家魂の背後にある日本の心・日本思想とは何かを解説され、同協会の経営者育成の活動が紹介された。その中で特色的なのが山の修行であり、「やすらぎの里」修行道場は昨年5月5日に開設された。

梅村武史(アーチバスジャパン株式会社代表取締役)様は『成功するチームは「遊び」でつくる：新感覚チームビルディング』(産業能率大学出版部)を上梓された東大卒の異色の社風改善のプロモーターである。コロナ禍で同社のチームビルディングの手法が生かせない時には、オンラインによる新たな手法が開発され、常に前向きでポジティブの姿が印象的である。「幸せ創造企業プロジェクト」を市川氏が監修のもとで立ち上げ、「幸せ創造企業診断」という独自の診断表を策定した。

佐藤紗耶子(株式会社リヴィティエ代表取締役社長)様は高校卒業後、ITビジネスに関心をもって独学でプログラムを勉強し、IT系の企業を独立開業させた。創業の共同経営者から裏切られるなど会社の存在意義を見失うなかで、市川氏と出会う。「腹が出来ていない」と指摘され、山修行に熱心に参加するようになった。



前列左から3人目が佐藤氏、4人目が市川氏、7人目が梅村氏

ようになった。過酷な絶壁の登攀や危険な自然環境での修業から、神仏への崇拜の念を自覚的に持つに至った。自分が変わり、自社の社風も協会のリードカ開発道場に習った改善を通じて、他のIT企業にはない社風作りに成功しつつある。同社の企業理念は『かかわる人々の幸せを求めて』(2021年)のKindle版で読むこともできる。

◇◇会員の最新刊著書を紹介します◇◇

青木幹喜・當間政義・北野康 著

『現代エンパワーメント経営研究

—日本企業と台湾企業を対象にした実証分析—』

創成社 2024年 ISBN978-4-7944-2624 C3034 (¥2,600+税)

学会事務局より

令和6年度会費のご請求について

4月1日からの新年度(令和6年度)がスタートしましたので、同日付けで令和6年度会費請求書を会員の皆様方に郵送いたしました。

会費の支払期限は6月28日となっておりますので、期限までに速やかにご送金をお願い申し上げます。

学会運営の財源は会員の皆様方の会費のみで賄われておりますので、財源を確保して学会活動を円滑に運営するために皆様方のご協力をお願いいたします。

会員情報の変更連絡のお願いについて

4月1日から当学会の新年度が始まりました。これに伴って所属先の大学、会社等において転勤、転居等があり、所属先、自宅住所、電話番号、メールアドレス等の変更がある場合は、速やかに事務局までご連絡をお願いいたします。

会報に関しては、この2月度会報から従来の紙媒体から電子媒体に移行しております。メルマガの送信手段であるメールアドレスの変更がある場合は、メルマガの送信に支障がないように、タイムリーに事務局にご連絡をお願いいたします。加えて、今年度は会員名簿の更新版の発行を予定しておりますので、会員データの更新・整備は必要不可欠です。

つきましては、会員情報の変更連絡について皆様方のご協力をお願い申し上げます。

メールマガジン・学会ウェブサイトをご利用ください

大会、部会の開催や募集、その他ニュースなどタイムリーにお届けするにはメールマガジンが最適です。ぜひメールアドレスの登録をお願いします。

また学会ウェブサイト (<http://nippon-management.jp/>) では、学会の最新の情報をアップしております。ブックマークへのご登録をお願いします。

編集後記

3年はあっという間に流れ現会報委員会として最後の会報となりました。パンデミック禍の2021年にオンライン打合せで始まった会報委員会は、やがてアフターコロナとなりDX(Digital Transformation)の必要性が問われる中、会報の電子化が実現しました。次の3年ではどのような進化をするのか、今から楽しみです。(田中 記)

(会報委員会 細萱 伸子(委員長)、
本号担当: 田中 克昌(副委員長)、平井 直樹、東 史恵)

発行 **日本マネジメント学会**
(旧称: 日本経営教育学会)

〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-5
九段会館テラス2F
株式会社山城経営研究所内
TEL 050-1790-3506

E-mail: jimukyoku@nippon-academy-of-management.com
URL: <http://www.nippon-management.jp/>

印刷 ㈱ドットケイズ 〒03-5206-1626
E-mail: win@good-ks.co.jp